



## 第七章

### 貸借対照表(バランスシート)の見方



これまで、3つの決算書のうち損益計算書(P/L)とキャッシュフロー計算書についてみてきましたが、この章では「貸借対照表(バランスシート)」「(B/S)」についてみていきましょう。

もうすでに、B/Sが何を表しているのか？

B/Sの概要や、P/Lの当期利益とB/Sとの関係、キャッシュフローや運転資金との関係でB/Sについても少し触れてきましたが、この章ではもう少し詳しくみていきたいと思います。

その前に、家計の例を考えてみたいと思います。

### 家計の財産とは？

家計では、現金の収支や残高を管理する道具として「家計簿」がありました。

この家計簿は、現金や預金の入出金(収支)を表していますが、家計では家計簿(出納帳)だけで十分でしょうか？

つまり、収入やかかった費用、現金や預金の残高だけ管理していればよいのでしょうか？

現金や預金以外でも価値のある財産(資産や負債)を保有している場合もあります。

投資や資産運用として保有している株式や投資信託、社債などの金融資産もあるかもしれません。

マイホームなどの土地や住宅といった不動産も売却すればお金になりますから、立派な財産です。

このように、売却して換金できるもの、市場価格(時価)で評価できる財産もあります。

このような土地や住宅などの不動産のほかに、車などの動産もあります。

それから、これ以外にも、すこし性格が違いますが、他人にお金を貸したり融資している場合は、貸付金という債権を保有していることになります。

逆に、住宅ローンなどお金を借りている場合は、債務(負債)を保有していることになりますが、これも**負の財産**を保有しているということになります。

このように、保有している財産がいくらあるのか？  
財産の価値や、債権・債務のようなお金を返済してもらう権利、返済しなければならない義務も把握しておかないといけません。

もう一度、家計の財産を資産と負債に分けて整理してみると、以下のようなものがあります。

#### 1. 資産(保有財産)

現金、預金、株式、債券、生命保険(貯蓄型のもの)、  
投資信託などの金融商品  
土地、家屋などの不動産物件  
車、バイク、耐久消費財、宝飾品、骨董品などの動産  
貸付金などの債権

#### 2. 負債(返済義務がある借金)

住宅ローン、カードローン、その他借入金などの債務

現金や預金の収支や、金融資産の残高ぐらいは管理している人が多いかもしれませんが、それ以外の財産については案外いい加減な人が多いのではないのでしょうか？

現預金つまりお金の収支や残高以外は、管理がおろそかになっていませんか？

家計簿のように現預金の収支の内訳や残高だけでなく、その他の財産にも注意する必要があります。

つまり、家計においてもキャッシュフローだけでなく、財産のストックの状況も把握することが大切です。

## 家計のバランスシート(B / S)

それでは、ここで**家計のバランスシート**を考えてみましょう。

上記で挙げたような財産は、どのようにして形成されたのでしょうか？

財産(資産)を取得するためには、購入するためにお金が必要になります。

つまり、財産を保有するためには、そのために資金調達があったはずです。

財産(資産) = 保有するための資金の調達

ここで、資金調達の方法として3つの方法があります。

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1. 銀行などからの <b>借入れ</b>  | <b>返済が必要(負債)</b>  |
| 2. 親などからの <b>贈与や相続</b> | } <b>返済不要(資本)</b> |
| 3. <b>自らが稼ぎ出す</b>      |                   |

2の場合は、直接財産を譲り受ける場合もあります。

例えば、マイホームを購入する例で考えてみます。

財産として土地と家を取得するためには、お金が必要ですね。

仮に、4000万円のマイホームを手に入れる場合に、自己資金が1000万円、親から500万円を援助してもらい、残りの2500万円を銀行からの借入れによって資金調達したとします。



家のように購入して住み続けると、時間が経過するとともに老朽化して傷んできたりして、財産自体は消耗してきますし、財産価値は下がっていきます。

しかし、土地のように、市場価格で売買できる資産もあります。

そこで、家計の財政状態が健全なのかどうか？  
チェックするポイントがあります。

それは、資産を**時価評価**することです。

もう少しわかりやすくいうと、**現時点で売却(現金化)すると、いくらで売れるか？**ということですが。

不動産などは、必ずしも投資や売買目的で保有するとは限りませんが、  
土地や株式など相場のある資産は、定期的に**市場価格(相場)を意識**することが大切です。

そのうえで、家計のバランスシートで、資産が負債を上回っているどうかを確認しましょう。

**資産 負債 = 純資産 > 0 が健全な状態**です。

これは、資産を売却して現金化すれば、負債を返済できるということです。

ところが、**資産よりも負債が多い状態**、これを「**債務超過**」と呼んでいますが、  
**資産 負債 = 純資産 < 0** となります。

そうすると、資産売却しても、それだけでは負債を返済しきれません。

例えば、上記のマイホームの価値が購入価格の半分の2000万円まで下落した場合に、借入金(負債)が2300万円残っているようなケースです。

この場合、他に現金化できる資産がなければ、マイホームを2000万円で売却しても、借入金の方が300万円多いので、全て返済しきれません。

そうすると、差額の300万円、すなわち残った借入金は自分で稼いで余ったお金で返済するしかないので。

ここで、注意しなければならないのは、銀行に預けたお金に利息がつくように、**借りたお金(負債)は元金の返済義務だけでなく、利息も支払わなければならない**ということです。

そんなの当たり前ですよ。

したがって、住宅ローン、カードローンなどの負債がある場合は、当然、家計の損益では費用(コスト)になってきますし、直ちに現金の支出にはならなくても、**将来のキャッシュフローのマイナスにつながる**ということも、頭に入れておいてください。

## 会社のバランスシート(B / S)

さて、家計の例を踏まえたうえで、いよいよ会社のバランスシートについて考えてみましょう。

ここでは、以下のような会社設立の事例でみてみましょう。

- (1) 資本金300万円でA株式会社を設立。
- (2) 機械装置、備品などの固定資産200万円を現金で購入。
- (3) 商品在庫100万円を現金で仕入。
- (4) B銀行から200万円の融資を受けて運転資金を調達。

これを図にすると、以下のようなイメージになります。